

国会通信

茨城選出の議員

マイナス金利で
格差拡大と批判

民主・藤田氏

民主党の藤田幸久氏(参院茨城)は4日、参院予算委員会で質問に立ち、日銀が導入したマイナス金利政策について「正当な理由が乏しく、無理筋の手段

だ」と批判した。

藤田氏は、日銀がデフレ脱却のため掲げてきた2%の物価上昇を実現するために行ってきた量的・質的金融緩和に手詰まり感がある中で、マイナス金利の導入はさらなる国民負担を増やす可能性を指摘。「手段が先行して実体経済は改善せず、格差も拡大する」と述べ、政策転換を求めた。日銀の黒田東彦総裁は、失業率の改善や多くの企業で賃上げが進んでいる例などを挙げ、「量的・質的金融緩和は成果を上げていると考えている」と強調した。